

# 明るい家庭づくり作文

家族の役割、家庭のあり方などをテーマとして、広報かさおか8月号で募集した「明るい家庭づくり作文」に1,780点もの応募をいただきました。優秀賞に選ばれた作品の中から、一作品を紹介します。

## 「どうだった」の一言

神内小学校六年

畝川慎平

「今日、どうだった。」

祖母や母が、聞いてくる。

今日は水泳記録会の練習があった日。練習を終えて帰ると、待ちかまえたように、聞いてくる。父も仕事から帰るとやっぱり同じ、「どうだった。」

水泳記録会に向けての練習は、正直言ってみれば、毎日二時間近くの練習。手だけ、足だけ、クロール、平泳ぎと、休むことなくメニューをこなしていく。練習がきつく感じ始めたのは、タイムが伸びなくなってきたときだ。練習しても練習しても、伸びない。他の友達は、着実に伸びているのと思うと、練習

に参加するのが、だんだん苦痛になってきた。

そんなときの「どうだった。」攻撃は、腹が立った。ぼくのしんどい気持ちなんか、ちっとも分かってくれないと思うと、口も聞きたくないこともあった。

記録会当日は、四種目に出場した。母が朝一番から会場に来て見てくれていた。ぼくは緊張感の中、四種目全部で自己ベストを出すことができた。今までなかなか記録が伸びなかったことがうそのような結果だった。でも、他校のすばらしい泳ぎをする人たちを見て、ぼくはまだまだだなあ、もっとがんばりたいと思う大会だった。家に帰ったら、「どうだった。」祖母が聞くのは分かるけど、

全部見ていた母までニコニコして聞いている。「母さんは全部知ってるじゃない。」

「結果じゃなくて、どう思ったのか、楽しめたのか、慎平の気持ちを知りたいから。」

と言った。後から聞いた話だが、どうだったと聞かなくても、ぼくの様子でみんな大体分かっていたようだ。いいタイムが出るとうれしくて聞かれる前に自分から言ってしまうし、記録が伸びなくてだめなときは、不機嫌で返事もしないので、だめだったんだなあとそっとしておいてくれたようだ。分かってくれないと思っていたぼくのほうが、分かっていなかったんだなと思う。

ぼくは、だんだん水泳で記録が伸びたり、走るのが速くなったりすると、高二の兄と比べてみる。プールで一緒に泳いだり、競争したりしても絶対に勝てない。負けず嫌いのぼくが、くやしそうにしているのを見て母が、「まだ、あんたの体が小さい

けえよ。同じ年の記録は勝つとるよ。」

と小さい声で言ってくれる。くやしとか、つらいとか、何も言わなくても、ぼくの気持ちに母にはよく分かるんだと思う。

「どうだった。」という家族の一言には、ぼくへの優しい気持ちがつまっている。率直な気持ちでこたえてくれたらいいなと思う。

## 「明るい家庭づくり作文」優秀作品

学校名	氏名	題名
新山小学校1年	谷本成	ぼくのおねえちゃん
笠岡小学校2年	保坂みゆう	お母さんのしらが
金浦小学校3年	黒田雄真	お母さんは、さんばつ屋
金浦小学校4年	堺優花	救急車で運ばれたおじいちゃん
大島東小学校5年	黒住藍	お大好きなひいばあちゃん
神内小学校6年	畝川慎平	「どうだった」の一言
金浦中学校1年	津田充和子	尊敬する祖父
北木中学校2年	今中美咲	私の妹
金浦中学校3年	原田菜穂	千羽鶴
笠岡西中学校保護者	狩野恭子	おかえり

【敬称略】

売りたい	買いたい	貸したい	借りたい
<b>不動産のご相談は</b> 建設業許可(14)第2430号 宅地建物取引業免許(10)第1471号 <b>山陽住宅株式会社</b> 五番町5-50(税務署となり) TEL63-3663 <a href="http://www.sanyo-j.co.jp/">http://www.sanyo-j.co.jp/</a> E-mail info@sanyo-j.co.jp			
水道	下水	浄化槽	リフォーム
<b>水廻り工事のご相談は</b> 笠岡市指定給水装置工事事業者 笠岡市指定排水設備工事店 <b>新興設備株式会社</b> 美の浜29-21 TEL67-1366 夜間の修理は 090-3177-1366まで			